

## ご意見をいただきましたので、ご回答させていただきます。

平成30年11月20日

ちやいるどはうす中吉田

小学生の子供が園に来る事について（原文のとおり）

先生の子供が春休み、夏休みなどに園に来ていると思われま。子供たちにとって大きいお兄ちゃんお姉ちゃんとふれあう事は刺激になり良い事だと思いますが気になる事があるので教えて下さい。先生の子供達が園に来る事は先生を確保するための福利厚生としてお考えなのでしょうか。保護者からすると保育園料や給食費を支払わずに休み中の子供を見てもらっているとすれば不公平に感じます。小学生の子供を見てくれるのであれば、他の家でも預かってほしい人もいます。又、もし小学生の子供がなんらかの不注意で園児にけがをさせてしまったらどのように責任をとるのでしょうか。気になりましたので意見として投稿いたします。保護者に明確にした方が誤解がないと思います。

ご意見ありがとうございます。

様子を見てみると、お子さんたちは「〇〇ねえね（おねえさん）」と呼びながらとても良いお顔で一緒に過ごしています。保育士とは違った信頼関係で生活している様子がよくわかります。小学生も年下のお子さんに対し「慈しむ心」や「自分のことは後回し」などを意識しながらお世話をしてくれています。保育園は限られた環境の中での生活なのでいろいろな人と関わることができることができる貴重な体験と考えております。

### ① 人員確保について

保育士が自身の子どもを預けられない時は仕事を休まざるを得ません。保育に支障をきたすのでそのような時には「ボランティア枠」として自身の子どもを連れて来ることを許可し、人材確保をしています。小学生は「ミニ先生」としてお子さんのお世話をします。また、子育て世代の女性が仕事をしやすい環境を作ることも必要と考えております。

### ② 保育料および給食費について

ボランティアなので保育料等は発生していません。「お子さんのお世話をすること」「わからないことは近くの先生に聞くこと」「自分のお母さんとは別のお部屋のお手伝いをする事」「お昼寝中は宿題等勉強をすること」などの約束事が決められています。給食費は全員実費を徴収しています。

### ③ けがの対応について

保育士が最善の注意をはらっていますが、万が一の保育中の事故に関しましてはスポーツ振興会または園で加入している傷害保険で対応します。また、ボランティア保険への加入も検討していきたいと考えております。

ご説明が不十分で申し訳ありませんでした。

冬休み期間中も小学生（なぜか女の子ばかりです）が来る日があると思いますがご理解ご了承をよろしくお願いいたします。